

10-4 中学校 3年生社会科[公民的分野] 指導事例
「安心して暮らせる社会とは？」 (国民の生活と政府の役割)

【単元目標】

国民の生活と福祉の向上に資するために政府は経済活動にどのように関わるべきかを考えようとする。

【目指す子どもの姿】

安心して暮らせる社会の実現にむけて経済活動や政府の役割はどうあるべきかを理解し、よりよい社会について考えていこうとする姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全7時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>働くということは何だろう？①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業講話や職業体験などの学習を振り返り、働く意味を考える。 ・基本的人権で学習した労働権や義務との関係についても考える。 	<p>ポイント1</p> <p>関心をもつ</p>
<p>働く人を取りまく環境を知ろう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用環境の変化（非正規雇用・雇用の流動化・失業率の変化など）について知る。 ・労働者の立場を守る法制度や労働組合の意味について考える。 	
<p>安心して働ける社会にするにはどうしたらよいだろうか①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、どのような法制度や仕組みが必要となるか。 ・雇用環境の変化とともに、労働者の権利をどのように保障していくかを考える。 	<p>ポイント2</p> <p>多面的・多角的に考える</p>
<p>現代の日本の社会像と社会保障について知ろう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会の見方」で学習した、社会像がもたらす影響について考える。 ・日本の将来予測をし、どのような課題があるか話し合う。 	
<p>社会保障の仕組みについて考えよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の仕組みを理解し、その意味や役割について考える。 	
<p>誰もが安心して暮らせる社会を目指して①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投票率の年代別割合などから、どのような政策が重視されているか話し合う。 ・すべての人が安心して暮らすための社会保障制度をつくるためには国民の合意や財源が必要であることを理解する。 	
<p>よりよい社会を目指して～経済活動と政府の役割①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らせる社会をつくるために、社会保障制度をもとに政府はどのような働きかけをしていくかを考える。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

公民的分野の学習では「対立と合意」「効率と公正」の関係を考えましょう。

公民的分野の学習では、取り上げた事象に関わる人々や集団の立場や意見によって、利害の違いが生じることがあります。このような「対立」が生じた場合、「合意」に至る努力がなされていることについて理解させることが大切です。また、「合意」の妥当性について判断しなければいけなくなる時には、「効率」と「公正」等の考え方が代表的な判断の基準になります。

ここでは、会社側（使用者）と労働者が労働条件などそれぞれの立場から「対立」が生じますが、両社が「効率」と「公正」の関係から「合意」に至る方策を模索したり、「安心して暮らしていける社会の実現」という視点から政府がそのしくみをつくっていることにも気付かせるとよいでしょう。

また、現代社会における様々な労働をめぐる問題にも触れ、どのような働き方が良いかを議論することも大切です。

ポイント2

今後の日本がよりよい社会になるためには、どうあるべきかを考えましょう。

公民的分野のはじめに「私たちが生きる現代社会と文化」や「現代社会をとらえる見方や考え方」などで学習した現代社会の諸課題をふまえたうえで、今後の日本が目指すべき社会像をとらえさせ、その実現に向けて何が必要かをこの単元での学習と結びつけることが大切です。

例えば、「高い水準の福祉を受けられが、その分負担の大きい北欧型か、低い水準の福祉で低負担のアメリカ型の社会保障制度か」が考えられます。それぞれ、メリット・デメリットを話したうえで、人々が安心して暮らせる社会にするためには、どのような制度がより適当かを考えてみるとよいでしょう。その際に、公平性という視点や税の配分についても議論が深まるとよいでしょう。